

## 計量魚探を用いたカタクチイワシ調査における魚種確認と解析方法

安藤 朗彦  
(研究部)

Fish Species Confirmation and Analysis Method in Research of  
Japanese Anchovy (*Eugraulis japonica*) by Echo-Integrator

Akihiko ANDO  
(Research Department)

西海ブロック漁海況調査研究報告第11号印刷中

カタクチイワシの寿命は2年程度であり、従来他魚種で行われている漁獲物の年齢査定等から試算する資源量予測の手法が困難である。このため計量魚探を用いて海域のカタクチイワシ資源を直接計測し漁況を予測するとが試みられていたが、予測を行うためには魚種の確認が不可欠である。

そこで浅海域のカタクチイワシ調査において、延縄による魚種確認手法を開発し漁況予測の一助となることを目的に調査を行った。

計量魚探によるカタクチイワシの魚群密度と漁獲量の関係が一致したことから、延縄による魚種の確認はある

程度成果があると考えられた。魚群の魚種確認を行わずに魚探反応の形状等だけで魚群の分布を判断すると対象魚種以外の魚群を誤認する可能性が示唆された。計量魚探で計測した魚群の分布状況は、効率的な操業の可否の判断資料として役立つと考えられた。カタクチイワシ等の浮き魚類は常に海域を活発に移動している。延縄による魚種確認方法は短時間で行えるため、浮き魚類の移動に対して容易に対処できる方法と考えられた。しかし延縄漁具は魚種や魚の大きさに対して選択性をもち、安定性に欠けるため他の方法と併せて行うことが望ましいと考えられた。